

2023年度鈴鹿市立天名小学校研修計画

1. 研修主題 及び 副主題について

研修主題（案）

思いや考えを伝え合い、ともに学びを深めていく子どもの育成
 ～文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、自分の考えを広げるための読む活動～
 教科・領域 国語科

2. 主題設定の理由について

2019年度から2022年度以前は、全教科・領域（道徳1学年）から自分が研究する教科・領域を選択していたが、今年度からは国語科にしぼり研究を進めていく。

昨年度末に実施した、研究教科に関するアンケートでは、国語科を研究したほうがよいという意見が多く、「ほかの教科に比べると、誰かが意見を言うのを待っている様子が見られる。」「国語（日本語）の力がないと論理的な数学的思考もできない。」「算数の文章問題を通して、子どもの語彙力の乏しさを強く感じた。」などといった意見がみられた。そのため、今年度は国語科の研究を進めることにした。国語科の「説明的な文章」「文学的な文章」のうち、今年度は、「文学的な文章」を通して、思いや考えを伝え合い、ともに学びを深めていく。

3. 令和5年度 校内研修計画

月	全体研修会	備考	月	全体研修会	備考
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ R 5 年度の研修概要 ・ 具体的な取り組み ・ (アスカモデル) 救命救急研修 	各学年・担当の授業の様子を参観し合う又は公開授業を行う ※なるべく略案	10	研究授業・部内研 ・ <u>第2回授業実践交流ウィーク</u> （1週間期間を設ける） ・ <u>ICT ミニ研修会⑤</u>	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な取り組み ・ <u>第1回授業実践交流ウィーク</u> （1週間期間を設ける） ・ 「めあて」と「ふりかえり」について ・ 指導案のテンプレ ・ <u>ICT ミニ研修会①</u> 		11	・ 研究授業・部内研 ・ <u>ICT ミニ研修会⑥</u>	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業・部内研 ・ <u>ICT ミニ研修会②</u> 		12	研修の成果と課題 ・ <u>ICT ミニ研修会⑦</u>	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価について ・ <u>ICT ミニ研修会③</u> 		1	・ みえスタ分析 ・ 人権レポ研	

				・ICTミニ研修会⑧	
8	・学調・みえスタ分析 ・研修レポ研(1学期の取り組みの成果と課題) ・人権レポ研		2	・紀要作成 ・R6年度校内研修の方向性	
9	(研究授業・部内研) ・ICTミニ研修会④		3	・R6年度校内研修概要決定	

(1) 授業実践交流ウィーク(年間2回)

- ・児童の様子や指導実践などを交流することを目的として、指導者が互いの授業を参観する。(一人1回以上参観をする。)
- ・年間2回、5月と10月にそれぞれ1週間程度の期間を設ける。
- ・5月実施の第1回は、研究グループ内での交流とする。時間があれば、ほかの学年の授業を参観してもよい。
- ・指導案等の作成は必要としない。また、参観する教科も国語以外も可とする。

【実施方法】

- ①授業実践交流ウィークまでに、「授業実践交流ウィーク」クラスルームに授業者自身が授業の概要やポイント、見てほしいポイント等を投稿する。
- ②授業を参観する。(担当クラスの児童に問題を解かせている時間等、短時間でもよい。)
- ③参観後、参観者は児童の様子や指導実践など気付いたことなどをコメントする。

(2) ICTミニ研修会(年間8回)

- ・ICT支援員さんに講師を依頼して、ICT活用実践交流会を行う。
- ・所要時間を30分程度とする。
- ・内容については、ICTに関して、学びたいことなどを教職員に事前にアンケートを取ったり、ほかの小学校で好評だった研修をしていただく。
- ・子どもの現状や、日頃の悩み相談や情報交流など、教職員同士が気軽に話せるコミュニケーションの場としたい。

3. 日常の具体的な取り組み

(1) 教育活動全体で「読むこと」「話すこと」を重視する。

国語科「読むこと」の領域は以下の4つで構成されている。

「文学的な文章」の読み取りでは、以下のことを意識して取り組ませたい。

①【構造と内容の把握】

文学的な文章では、1・2年生は「場面の様子や登場人物の行動など」3・4年生は「登場人物の行動や気持ちなど」5・6年生は「登場人物の相互関係や心情など」をとらえる。

②【精査・解釈】

文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて必要な情報を見付けることや、書かれていることや書かれていないことを、具体的に想像する。

③【考えの形成】

自分の既存の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていく。

④【共有】

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、自分の考えを広げることを示しており、1・2年生は「感じたことや分かったことを共有する」3・4年生は「一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く」5・6年生は「自分の考えを広げる」ことである。

- ・国語科のみならず、様々な場面で、既習事項（文章の構成・はじめ 中 終わり・起承転結など）をいつでも振り返ることができるようにしたり、その場に応じた正しい言葉遣いを意識させたり、話型を使って説明させたりするなど、教育活動全体で「読むこと」「話すこと」を重視して行う。
- ・研修主題である“伝え合い、ともに学びを深めていく”ための「話すこと・聞くこと」の指導は、相手を意識した活動であることを指導する。「話しっぱなし、聞いているつもり」ではなく、「聞き手の方を向いて話す」、「話し手の考えに反応しながら聞く」など、細やかな指導を心がける。
- ・話型指導「私は〇〇だと思います。そのわけは…。」「〇〇さんの意見につけてして、」など、学年に応じた話し方を系統立てて指導する。
- ・声のものさしの活用をする。
- ・低学年、中学年、高学年それぞれの「話し方名人」「聞き方名人」を意識させ

話し方名人

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・あいてを見て ・はっきりとした声で ・ゆっくりと ・さいごまで 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て ・はっきりとした声で ・大事なことをおとさずに ・最後まで 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て ・相手に伝わる声で ・速さにきをつけて ・要点をおさえ、筋道をたてて ・最後まで

聞き方名人

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・さいごまで ・話している人を見て ・よいしせいで ・うなずきながら 	<ul style="list-style-type: none"> ・話している人を見て ・うなずきながら ・最後まで ・大事なことをおとさずに ・感想や意見を言う 	<ul style="list-style-type: none"> ・話している人を見て ・うなずきながら ・最後まで ・話し手の思いを受け止めて ・自分の考えと比べて感想や意見を言う

<理由（わけ）をはっきり>

わたしは、・・・だと思います。なぜなら、・・・だからです。

<意見を聞いて>

〇〇さんと 同じで、
似ていて、
付け足して、
違って、

(2) 「めあて」と「ふりかえり」の充実

単元のゴールやその授業のめあてを学年の実態に合わせて提示し、1時間何を学習するのか目的を持たせて学習させる。授業の終わりには、学んだことを中心に、「ふりかえり」を行う。

【例】 ×「〇〇についてよく分かった。」×「〇〇が難しかった」

→ 「今日は、・・・について学習した。今までは・・・だったけど、
〇〇さんの意見を聞いて、・・・と思った。」など。

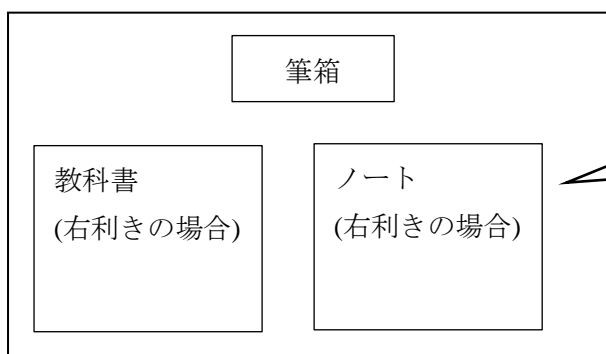
(3) 読書活動

- ・各教科単元の学習で図書室を積極的に活用していく。読書や資料探し、並行読書、読み聞かせなど、語彙力や読解力をつけさせる。
- ・読み聞かせボランティアさんや教師による読み聞かせを継続して行う。
- ・巡回図書指導員さんの積極的な活用をする。

(4) 学習規律を徹底して、学習環境を整備する。

- ・手の挙げ方
- ・あいさつの仕方
- ・座り方
- ・チャイム前着席
- ・「聞き方名人」「話し方名人」
- ・教室内の整理整頓（子どものロッカーも含む）
- ・見やすいノートの使い方指導（問題・めあて・まとめ・振り返り）
- ・児童の机の上の学習道具（教科書・ノート・筆箱・クロムブックなど）の配置

【机の上の学習道具の配置】



必要なものを必要なときに
机の上に出させる。